Focus XD 取扱説明書
日本語

本姓津名所は製品改善や新機能が追加されるため、更新が必要となることがあります。
本説明書の最新版はDynaudio（ディナウディオ）のウェブサイトから入手できます。www.dynaudio.com

目次

このガイドについて 5
本説明書で使用する表現と記号 5

安全情報 6

本体および付属品 7

解梱 8
包装材料 8

処分 8

セットアップ 9
スタンド型ラウドスピーカーのセットアップ 10
コンパクトラウドスピーカーのセットアップ 10
設置場所の選択 11
ライト・レフトラウドスピーカー 11
壁までの距離 12
リスニングポジションまでの距離 12
ラウドスピーカーを内側に向ける 13
グリル 13

接続と操作 14
接続と制御要素 14
リモコン 16
　制御要素 16
ラウドスピーカーの接続 17
　デジタル信号源の接続 17
　アナログ信号源の接続 19
　音量をコントロールせずにラウドスピーカーを操作する 19
ラウドスピーカーの音の調節 20
　低周波数域の調節 20
　高音域の調節 20
電圧源の接続 21
オン/スタンバイモードの切り替え 21
ラウドスピーカーの入力の選択 22
ハブ入力の選択 22
　ハブ（HUB）の選択 22
　ハブ（入力）の入力の選択 22
音量の調節 23
ラウドスピーカーのミュート 23
ディスプレイ 24

ファームウェアの更新 28

お手入れとメンテナンス 29

保障 30

故障 30

技術データ 31

ありがとうございます

Dynaudio Focus XD ラウドスピーカーをお選びいただき、ありがとうございます。

全てのFocus XDモデルには高度なディナウディオ ラウド スピーカーテクノロジーを採用しています。これにより、音楽鑑賞が非常に素晴らしい経験となります。このテクノロジーは長年の集中的な研究と開発、生産において最高基準、真の音楽への尽きることのないDynaudio のこだわりから生まれました。

それぞれのFocus XDラウドスピーカーは、高音質を求めるテクノロジーのためにDynaudioの優れた職人たちによってつくられました。Focus XDモデルの最高音質を体感していただくために、いくつか説明する必要のある項目があります。以下のページでは、これらを詳しく説明しています。ヒントや提案を考慮しいていただくことで、Focus XDの楽しさと最大限のパフォーマンス、長年にわたり研究されてきた高度な音楽的可能性を引き出すことができます。

お気に入りの音楽をお楽しみいただければ幸いです。

Dynaudio（ディナウディオ）

このガイドについて

本説明書で使用する表現と記号

この取扱説明書では、以下のような表現や記号を使用します。

注意
これは**製品の破損や破壊**を引き起こす可能性のある危険性を示しています。

一般的な警告シンボルは、**けがや死亡**につながる可能性のある危険性を示しています。
これは、以下で示す警告レベルと組み合わせて使用されます。

注意
これは、軽度または中度のけがを引き起こす可能性のある危険性を示しています。

警告
これは、死亡または重症また大けがを引き起こす可能性のある危険性を示しています。

これらの項目で示されている説明に常に従うようにしてください。

注記: これらの項目には、ラウドスピーカーおよびその操作方法を完全に理解していただく上で重要な追加情報が含まれています。

► 矢印は、行うステップを示しています。これらの説明は注意して従うようにしてください。
続けて行う必要のあるステップには順に番号が振られています。以下の順に従ってください。

1. 操作 1
2. 操作 2
3. 操作 3

安全情報

⚠ 警告

危険電圧

ラウドスピーカーが電源電圧に接続されると、危険な電圧がスピーカー内に発生します。

- ► ラウドスピーカーのハウジングを開かないでください。
- ► 欠陥のあるラウドスピーカーを作動させないでください。また、欠陥がある場合は主電源からラウドスピーカーを外してください。問題が生じた場合には、Dynaudio代理店までお問い合わせください。代理店の住所はwww.dynaudio.comに記載されています。
- ► 付属の電源ケーブルを使用してラウドスピーカーを主電源に接続してください。電源供給ケーブルが破損していないことを確認し、破損がある場合には新品と交換してください。

⚠ 注意

高音圧レベル

長時間にわたり高音圧レベルの音を聞き続けると、耳を悪くすることがあります。

- ► 聴覚効果を避けるには、高音圧レベルの音を長時間にわたり聞かないようにしてください。

本体および付属品

❶	2 Focus XDラウドスピーカー（200 XDまたは400 XD、600 XD）
	2 Focus XDラウドスピーカー クロース カバー（図示なし）
❷	1 リモコン
❸	2 電源ケーブル（国特有のもの）
	1 最初のセットアップ説明書（設置の簡易ガイド、図示なし）

❶

❷

❸

解梱

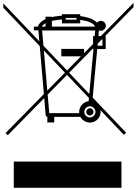
解梱後は、システムが完全にセットされ、機器および付属品すべてに輸送による破損がないことを確認してください。パッケージがすでに激しく破損している場合は、輸送による破損の恐れがあります。破損した機器を組み立てないようにしてください。内容に欠如や破損がある場合には、Dynaudio代理店までお問い合わせください。代理店の住所はwww.dynaudio.comに記載されています。

包装材料

パッケージはこの機器専用に設計されています。輸送の際の破損が見られない場合は再利用することができます。パッケージは保管し、今後の移動の際に元のパッケージを使用するようにしてください。

処分

使用済みの電気・電子機器（ヨーロッパ諸国において、この機器は分別回収システムが適用されます）の処分



製品またはパッケージ上の、この記号は、家庭ごみとして処分できないことを示しています。家庭ごみとして処分するのではなく、電気・電子製品のリサイクル専用の回収場所にて処分する必要があります。この製品が正しく処分することにより、環境衛生および人間の健康に害となる可能性を防ぐことができます。また、機器や付属品のリサイクルを行うことで、自然資源の節約にもつながります。この製品のリサイクルについてのより詳細な情報については、お近くのリサイクル局または地域別廃棄処分所、本製品を購入した販売店までご連絡ください。

セットアップ

注意

ライト、熱、電磁放射

直射日光または異常な強さの明かりは、ラウドスピーカーの天然ベニア板の音色に影響を与えることがあります。発熱は、オーバーヒートを引き起こすことがあります。各種機器の電磁放射は、共通の機能障害を引き起こすことがあります。

- ▶ 異常な高温または低温、高湿度の環境にデバイスを設置しないでください。
- ▶ 長期間にわたりラウドスピーカーの質を維持するために、光の多く当たる場所、日光が当たる場所などへの設置は避けてください。
- ▶ 十分に換気できるようにし、ラウドスピーカー周りの必要な距離に注意してください。
- ▶ 強い電磁を放射する機器の近くにラウドスピーカーを設置しないでください。磁場による故障・破損の原因となることがあります。

⚠ 注意

とがった末端のスパイク

スタンド式Focus 400 XDおよびFocus 600 XDラウドスピーカーはスパイクによるセットアップが可能です。スパイクの先端は、けがの原因となることや、デリケートな床に傷をつけることがあります。

- ▶ スパイク部分がむき出した状態では、ラウドスピーカーの持ち上げや移動に注意してください。
- ▶ お客さまご自身や床を傷つけないように注意してください。

スタンド型ラウドスピーカーのセットアップ

スタンド型Focus XDラウドスピーカーには、特別なベース構造が採用されています。これにより、理想的なパフォーマンスと機器の基盤を提供しています。これらのスパイクはベースの脚の末端にネジで止められています。これらはネジをゆるめて、起伏のある床の設置に高さを調節することができます。これらスパイクを収めた状態では、ラウドスピーカーはゴム脚で立ちます。ゴム脚は、床との接触部が非常に少ない状態でキャビネットを安定させます。そのため、最適な共振制御を行うと同時に、ぶれをふせぎます。

最適なセットアップのバリエーションは、部屋や床の状態により異なります。ご購入先のDynaudio販売店がセットアップ際にお手伝いさせていただきます。

コンパクトラウドスピーカーのセットアップ

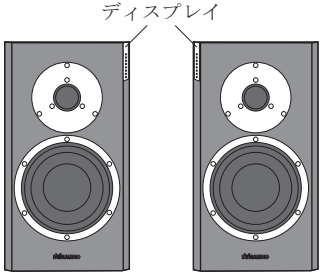
コンパクトFocusモデルは、最小限のスペースで非常に優れたパフォーマンスをもたらすように設計されています。音質に悪影響が及ぶため、ラウドスピーカーは床での設置に適しません。小型モニターは反響を吸収しながら、適切な高さで配させるために専用のスタンドを使用したときに最適なパフォーマンスを認識します。Dynaudioは、Focus XDシリーズのラウドスピーカー専用の特別スタンドを開発しました。より詳細な情報についてはDynaudio代理店までお問い合わせください。

本製品の寸法により、レッジや棚、家具の上などにもラウドスピーカーを置くことができます。音質への考えられる悪影響を避けるためにも、音質やパフォーマンスを制限させないように十分な広いスペースを用意できる安定した平らな表面を使用してください。

設置場所の選択

Focus XDラウドスピーカーには特別な配置を必要としません。ただし、それぞれのサウンドスピーカーの音は、部屋の音響の性質に影響されます。部屋の形が特殊である場合、ラウドスピーカーの配置により、音響が大きく変わることがあります。たとえば、あまり家具がない部屋や飾りなどがない多くの硬い壁の表面は、さまざまなエコー周波数により明るく拡散する音が生まれます。厚いカーペット、カーテン、やわらかい家具の表面のある部屋では、やや温かく暗い音が生まれます。
以下の情報ステップでは、簡単に行うことのできる適切な配置を一般的に説明しています。さらに、お客さまの当製品を使用する部屋での音質ポテンシャルを最大限に引き出すためにも、当製品をお買い上げいただいたDynaudioの代理店によるサービスをご利用いただくことをお勧めしております。

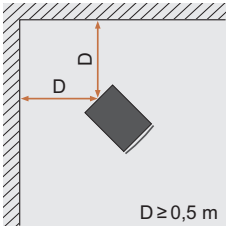
ライト・レフトラウドスピーカー



レフトおよびライトラウドスピーカーの外側はそれぞれ異なります。それぞれのディスプレイの配置（図を参照）および後ろ側のラベルが異なります。

► 希望する場所にラウドスピーカーを配置します。

壁までの距離

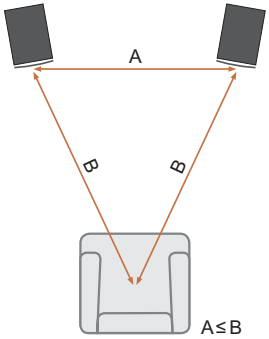


各ラウドスピーカーの音響エネルギーの方向には部屋に向けて直線だけでなく、横や後ろも含まれます。そのため、時間差による反響が発生し、元の音楽信号に加わります。よって、ラウドスピーカーの配置が壁に近すぎると、音質が制限されることがあります。

Focus XDは、フリースタンディングでの配置に開発されました。そのため、可能な限り壁のない位置に配置することで最適なパフォーマンスを実現します。

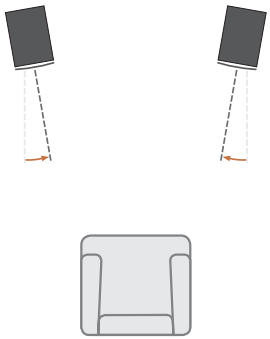
- ▶ 後方や側面の壁からの影響を提言させるためには、これらの境界への距離が0.5メートルを下回らないようにする必要があります。
- ▶ ラウドスピーカーの音を調節します （20ページを参照）。

リスニングポジションまでの距離



- 各ラウドスピーカーとリスニングポジションの距離は同じ（B）であることが理想的です。位置関係が二等辺三角形となるようにしてください。
- ラウドスピーカー間の距離は等しくします。または、各ラウドスピーカーとリスニングポジション（A、B）間の距離よりやや近くすることが理想的です。
- ラウドスピーカーとのリスニングポジションの位置が近いほど、スピーカーはそれぞれの配置距を短くできます。
- 開始地点として、最適な配置を行うために（A）スピーカーの距離は2メートルほど離すことを推奨します。
- それぞれのスピーカーの位置が近すぎると、ステレオ画像のリアルさが失われます。また、距離が離れすぎると、音響ホールが中心に残ることがあります。
- リスニングテスト中にイメージに気を配ることで、テストおよびセットアップ中の最適な配置を見出すのに役立ちます。

ラウドスピーカーを内側に向ける



お客さまそれぞれの環境や部屋の寸法によりますが、ラウドスピーカーはリスニングエリアに向けて傾けることで、放射音の焦点を合わせます。この配置では一般的に、イメージングを向上します。また、これは特に、Dynaudioがお勧めしている配置です。ただし、お客さまの個人的な音楽鑑賞習慣に合わせて的確な位置を自由に選択していただいてもかまいません。

グリル

当製品にはグリルクロスが含まれています。これは、キャビネットに貼られており、ホコリや他の影響を及ぼすものから守ります。グリルは音響的に最適な状態となっています。ただし、最高の音質レベルは、音楽鑑賞中においてグリルを使用しない場合に確立できます。

前面のグリルを使用すると、磁石でハウジングの前面が固定されます。前面のグリル

の取り外し

- ▶ グリルを外すには、前面から全ての端のグリルをやさしく引き抜きます。
- ▶ グリルを取り付けるには、ロゴが上に向いた状態でハウジングの前面に完全に一致するように合わせ、ラウドスピーカーにカバーを慎重に押し込みます。

接続と操作

このセクションでは、コンポーネントの接続と制御要素を説明します。接続やスタートアップに問題が生じた場合には、Dynaudio代理店までお問い合わせください。代理店の住所はwww.dynaudio.comに記載されています。

アクティブなラウドスピーカーには統合型のアンプがあります。また、これはリモコンで制御することができます。

接続と制御要素

Digital Audio (デジタルオーディオ)	**デジタル接続** ・**IN** = 入力 ・**OUT** = 出力
Analog Audio (アナログオーディオ)	**アナログ接続** ・**IN** = 入力 ・**Input sensitivity** = 入力感度の手動調節 (+6/0/-6 dB)
Service (サービス)	**ファームウェア更新用のUSBポート**
Speaker Position (スピーカーの位置)	**音の調節 (ラウドスピーカーの位置による)** 音の調節は、7箇所の回転つまみで行います。3箇所の主要ポジションでは、回転つまみがぴったりと収まります。 ・**Neutral** = フリースタンディング設置 ・**Wall** = 壁の近くに設置した場合 ・**Corner** = 角に設置した場合
Treble (高音)	**高音の調節** (+1/0/-1 dB)
Zone (ゾーン)	**オーディオゾーンの選択 (Xeoハブ操作)** 各種ゾーンに割り当てられたラウドスピーカーは、リモコンで別々に制御することができます。ゾーンは**赤、緑、青**として識別されます。
Channel Mode (チャンネルモード)	・**Master** = マスターとしてラウドスピーカーが作動します ・**Slave** = スレーブとしてラウドスピーカーが作動します ・**External** = アクティブなラウドスピーカーとしてラウドスピーカーが設定されています (フルパフォーマンス)
Power (電源)	**パワースイッチ** ・**I** = ラウドスピーカーがオンになります。ラウドスピーカーはリモコンでオン・オフを制御することができます。ラウドスピーカーがアクティブでも信号がない場合、スイッチはスタンバイモードになります。 ・**O** = ラウドスピーカーが完全にオフになります。
	電源ソケット ラウドスピーカーをコンセント電源に接続するためのものです。

リモコン

リモコンは、ラウドスピーカーのオン・オフ、音量の変更、デジタル・アナログ入力の切り替え、ディスプレイのオン・オフの切り替え、ハブおよび接続された信号源の選択に使用することができます。

制御要素

MUTE（ミュート）	**ラウドスピーカーのミュート** このボタンを短く押すと、選択されたラウドスピーカーのミュートまたはミュート解除が行えます。
ON / OFF（オン/オフ）	**ラウドスピーカーのオン/オフ** ● = オン ◎ = スタンバイモードに切り替え
VOLUME（音量）	音量の変更 ⊕ = 大 ⊖ = 小
DIRECT（ダイレクト）	**ダイレクト選択** In = デジタル・アナログ入力の切り替え ☾ = ディスプレイのオン・オフの切り替え
INPUT（入力）1 / 2 / 3 / 4	**信号源の選択** アクティブなハブから信号源を**Line** In、**Opt**ical In、**Coax** In、**USB** Inの中からひとつを選択します。
HUB（ハブ）A / B / C	**Xeoハブの選択** 3つのハブ、**A**、**B**、**C**からひとつを選択します。

ラウドスピーカーの接続

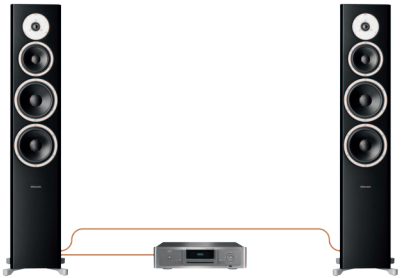
► ラウドスピーカーを選択するには、すべてのコンポーネントをオフに切り替えます。

デジタル信号源の接続

ラウドスピーカーは以下のように接続することができます。

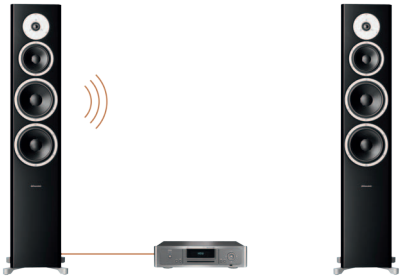
- 両方のラウドスピーカーをケーブルで接続します。これにはラウドスピーカーのケーブルが必要となりますが、システムは24ビット/192 kHzの信号処理を活用できます。
- ケーブルを使用して、ラウドスピーカーをひとつのみ接続します。この場合、ラウドスピーカー間は無線接続となります。これにはラウドスピーカーケーブルはひとつのみ必要ですが、信号処理は24ビット/96 kHzとなります。
- Dynaudio Xeoハブによる無線で両方のラウドスピーカーを作動させます。この場合、信号処理は24ビット/96 kHzとなります。

両方のラウドスピーカーをケーブルで接続する



1. 信号源として、ひとつのラウドスピーカーのデジタル入力 **(Digital Audio IN)** にデジタル出力を接続します。この場合、使用するラウドスピーカーは右か左のどちらかから選択することができます。
2. 接続されたラウドスピーカーをマスターとして作動させます。これを行うには、ハウジングの後側にある**Channel Mode (チャンネルモード)**スイッチを**Master (マスター)** に切り替えます。
3. マスターのラウドスピーカーのデジタル出力を、別のラウドスピーカーのデジタル入力 **(Digital Audio IN)** に接続します。
4. このステップにより接続されたラウドスピーカーをスレーブとして作動させます。これを行うには、ハウジングの後側にある**Channel Mode (チャンネルモード)** スイッチを**Slave (スレーブ)** に切り替えます。

ラウドスピーカーひとつのみをケーブルで接続する



1. 信号源として、ひとつのラウドスピーカーのデジタル入力 **(Digital Audio IN)** にデジタル出力を接続します。この場合、使用するラウドスピーカーは右か左のどちらかから選択することができます。
2. 接続されたラウドスピーカーをマスターとして作動させます。これを行うには、ハウジングの後側にある**Channel Mode (チャンネルモード)**スイッチを**Master (マスター)** に切り替えます。
3. 別のラウドスピーカーをスレーブとして作動させます。これを行うには、ハウジングの後側にある**Channel Mode (チャンネルモード)**スイッチを**Slave (スレーブ)** に切り替えます。

ラウドスピーカーをXeoハブで作動させる

Dynaudioの革新的なXeoシステムでは、ラウドスピーカーを完全に無線で作動させるためのオプションを提供しています。ラウドスピーカーへの接続はXeoハブにより確立されます。これはアナログ・デジタルソースが接続できるところが対象となります。より詳細な情報については、Xeoの取り扱い説明書を参照してください。

1. Xeoの取り扱い説明書に従い、Xeoシステムのインストールと設定を行ってください。
2. ハウジングの後側で、**赤、緑、青**のいずれかのゾーンを選択します。共通のゾーンに属するラウドスピーカーはリモコンを使用して一緒に作動させることができます。

アナログ信号源の接続

ラウドスピーカーは、アナログ信号源から信号を出力することもできます。信号源はアナログ入力に接続されます。

1. 信号源から左のアナログ出力を、左のラウドスピーカーのアナログ入力 **(Analog Audio IN)** に接続します。
2. 信号源から右のアナログ出力を、右のラウドスピーカーのアナログ入力 **(Analog Audio IN)** に接続します。
3. ひとつのラウドスピーカーを**Master（マスター）**、別のラウドスピーカーを**Slave（スレーブ）**として作動させます。これを行うには、ハウジングの後側にあるそれぞれのスイッチ **(Channel Mode)** をそれぞれ設定します。マスターおよびスレーブの割り当ては関係しません。

音量をコントロールせずにラウドスピーカーを操作する

音量をコントロールせずにラウドスピーカーを操作することができます。ラウドスピーカーに統合されているアンプは、パワーアンプとして機能します。そのため、音量は音源信号から制御されます（例：プリアンプ）。

⚠ 注意

高音圧レベル

外部操作モードでは、信号は最大で増幅されます。調節なしまたは最大レベルで音源信号を接続すると、耳を悪くすることや、コンポーネントが破損することがあります。

- ▶ 調節可能な音源信号のみを接続してください。
- ▶ ラウドスピーカーに切り替えるまえに、音源信号の音量調節で音量を下げてください。

1. 信号源から左のアナログ出力を、左のラウドスピーカーのアナログ入力 **(Analog Audio IN)** に接続します。
2. 信号源から右のアナログ出力を、右のラウドスピーカーのアナログ入力 **(Analog Audio IN)** に接続します。
3. ハウジングの後側の**Channel Mode（チャンネルモード）**を**External（外部）**に切り替えます。

ラウドスピーカーの音の調節

Focus XDラウドスピーカーの音は、高・低周波の量を変えることで調節できます。各ラウドスピーカーは部屋の状態や個人的な音楽鑑賞に基づいて、別々に設定することが可能です。

低周波数域の調節

Speaker Position （スピーカーポジション）回転つまみを使用して、低周波数域を下げることができます。これにより、生活空間ではよく起こる上昇または打ち消された低周波信号のバランスを整えることができます。

► 各ラウドスピーカーに、ハウジングの後側で希望する位置に **Speaker Position （スピーカーポジション）**の回転つまみを設定します。位置にぴったりとはまる（中間、壁、角）各主要ポジション間には、2つの追加的な中間ステージがあります。
- **Neutral （ニュートラル）:**フリースタンディング ラウドスピーカー（サウドに変化なし）
- **Wall （壁）:**壁の近くに設置した場合
- **Corner （角）:**角に設置した場合

高音域の調節

ハウジングの後側にある**Treble （高音）**スイッチを使用することで、お客さまの音楽鑑賞の好みに合わせて高音のプレイバックを調節することができます。これにより、音は変化します。

► ハウジングの後側にある**Treble （高音）**スイッチを3つの設定のうちのひとつにセットします。

- +1 dB: 高音域が上がり、いくらか明るい音が生まれます
- 0 dB: ニュートラルの状態です。音に変化はありません
- -1 dB: 高音域が下がり、いくらか温かい音が生まれます

電圧源の接続

注記: デバイスを接続する前に、本製品を設置する場所の電圧とスピーカーの後側に示されている電源電圧が一致することを確認してください。

► 本製品に含まれている電源ケーブルを使用し、ラウドスピーカーを主電源に接続します。そして、後側の電源(**POWER**) スイッチでオンに切り替えます。(位置:**I**).

オン/スタンバイモードの切り替え

ラウドスピーカーの状態をスタンバイモードから切り替える。

► ラウドスピーカーにリモコンを向け、**ON（オン）**ボタンを押します。

▼ ラウドスピーカーは自動で、オーディオ信号またはアクティブなハブを検索します。いずれかが見つかれば、信号が出力されます。

信号が見つからない場合、ラウドスピーカーは一定時間後にスタンバイモードになります。

► オンに再び戻すには**ON（オン）**を押すか、音楽の再生を開始してください。

ラウドスピーカーの状態をスタンバイモードに切り替える。

► ラウドスピーカーにリモコンを向け、**OFF（オフ）**ボタンを押します。

▼ これでラウドスピーカーはスタンバイモードに切り替わります。ラウドスピーカーを完全にオフに切り替えるには、後側の**POWER（電源）**スイッチを**O**に切り替えます。ただし、この状態ではラウドスピーカーは、リモコンによる操作ができなくなります。

ラウドスピーカーの入力の選択

► リモコンの DIRECT（ダイレクト）を押します。
▼ ラウドスピーカーにアナログ・デジタル信号源が接続されている場合、これらが切り替わります。

ハブ入力の選択

オプションで、ラウドスピーカーはDynaudio Xeoハブで作動させるもできます。Xeoハブの操作についての詳細は、Xeoの取り扱い説明書を参照してください。

ハブ（HUB）の選択

► リモコンのHUB **A**、**B**、**C**のいずれかを押します。
▼ ここで選択したハブが信号源となります。

ハブ（入力）の入力の選択

► リモコンのINPUT（入力）**1**、**2**、**3**、**4**のいずれかを押します。
▼ ここで選択した信号源が再生されます。

音量の調節

注記: ラウドスピーカーが各種ゾーンのハブモードで作動すると、音量は別々に制御されます。Xeoハブの操作についての詳細は、Xeoの取り扱い説明書を参照してください。

リモコンのVOLUME（音量）ボタンを押して音量を調節します。

- ► ⊕ を押すと、音量が上がります。
- ► ⊖ を押すと、音量が下がります。

ラウドスピーカーのミュート

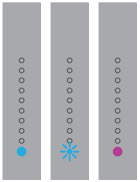
- ► リモコンの**MUTE（ミュート）**ボタンを短く押すと、選択されたラウドスピーカーのミュートまたはミュート解除を行うことができます。

ディスプレイ

ハウジングの上端のディスプレイでは、さまざまな色やフラッシュ機能とLEDでラウドスピーカーやシステムの作動状態が表示されます。

このディスプレイは、リモコンの ボタンでオン・オフを切り替えることができます。

LEDディスプレイの意味



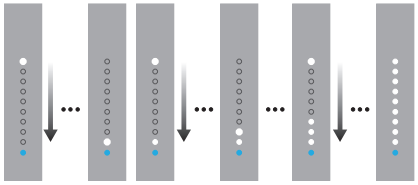
オン状態	
下のLEDが青く点灯している場合	ラウドスピーカーはオンの状態で、オーディオ信号が再生されます。
下のLEDが青く点滅している場合	ラウドスピーカーはオンになっています。ただし、選択された入力ではオーディオ信号を見つけることができません。
下のLEDが紫に点灯している場合	ラウドスピーカーはオンの状態で、オーディオ信号が再生されます。マスターおよびスレーブのスピーカーがケーブルで接続されています。

オフ状態	
下のLEDが薄い赤に点灯している場合	ラウドスピーカーはスタンバイモードになっています。

ハブ接続

下のLEDが赤く点滅している場合

アクティブなハブがありません。または、ハブに接続できるものがありません。



スイッチオンプロセス

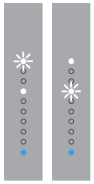
LEDがひとつずつ点灯する場合。

ラウドスピーカーのスイッチをオンに切り替えている途中です。

スイッチオフプロセス

LEDがひとつずつ消えていく場合。最後には、ひとつのみのLEDが薄い赤に点灯している場合。

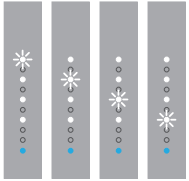
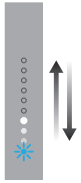
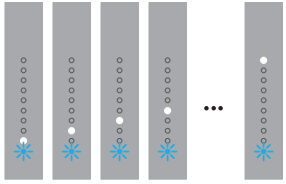
ラウドスピーカーのスイッチをオフに切り替えている途中です。

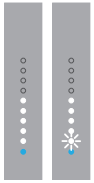


ダイレクト入力の表示

2つのLEDのうち、ひとつが点滅している場合

1. LED = デジタル入力
2. LED = アナログ入力

	選択されたHUBの表示 3つのLEDのうち、ひとつが点滅している場合	1. LED = HUB A 2. LED = HUB B 3. LED = HUB C
	**入力源の表示** 4つのLEDのうち、ひとつが点滅している場合	1. LED = INPUT 1 2. LED = INPUT 2 3. LED = INPUT 3 4. LED = INPUT 4
	**入力の検索** 青いLEDが点滅し、白いLEDのライトが上下に動いている場合	アクティブな入力を検索しています。
	**ハブ上のアクティブな入力の検索** 青いLEDが点滅し、白いLEDが順に点灯する場合	ハブ入力が選択され、ハブがアクティブな入力を検索しています。



音量、ミュート

多数の白いLEDが点灯している場合	この白いLEDの数は選択されている音量を示しています。
最初のLEDが点灯している場合	ラウドスピーカーがミュートされています。

ファームウェアの更新

白いLEDライトが順に点灯している場合	ファームウェアの更新が行われています。

ファームウェアの更新

注記: ファームウェアの更新は、ラウドスピーカーごとに別々に行う必要があります。

1. ファームウェアファイルを空のUSBメモリスティックにコピーします。
2. 機器の後ろにある電源スイッチで、ラウドスピーカーをオフに切り替えます。
3. ハウジングの後側にあるUSBポートにUSBメモリスティックを挿入します。
4. ラウドスピーカーをオンに切り替えます（機器の後ろにある電源スイッチで）。
   - ▼ ファームウェアの更新は自動的に開始されます。
   - ▼ 白いLEDが順に点灯していきます（27ページを参照）。
   - ▼ 更新は数秒ほどで完了します。ラウドスピーカーは自動的に、スタンバイモードに切り替わります。
5. ラウドスピーカーをオフに戻し、USBメモリスティックを取り外します。
6. 2台目のラウドスピーカーにも2～5のステップを繰り返し行います。

お手入れとメンテナンス

Dynaudioラウドスピーカーは、特別なお手入れを必要としません。ご自宅でご利用されているハイテク製品を扱う際と同じような慎重な取扱いを行うことで十分です。

注意

刺激の強い洗浄剤

万能クリーナ、刺激の強い洗浄剤、家具専用つや出し材などはキャビネットの表面またはその他スピーカーパーツを傷めることがあります。

- ラウドスピーカーを拭く際には、やわらかい乾いた布またはやや湿った布を使用してください。

ラウドスピーカーのお手入れ:

- システムのお手入れや長期間使用しない場合には、すべての機器をオフに切り替えてください。
- ドームトゥイーターには手を触れないようにします。この形が崩れてしまうと、音質に影響が及ぶことがあります。
- キャビネットやその他パーツは、やわらかい布またはやや湿った布のみで拭くようにしてください。
- ウーファーの振動版には、きめの細かい家具用ブラシでホコリを除去します。

Dynaudioが使用しているもの全ては、特別な扱いで統合されています。お客さまのラウドスピーカーをお手入れされることで、仕上がり・形態の質を長期間にわたり維持することが可能となります。

保障

保障は各国の法的規制に基づきます。

また、Dynaudioは、http://www.dynaudio.com/registerでオンライン登録いただければ、追加的な保障を提供いたします。保証期間については、登録の際の情報を査証してください。

この保証は材料や生産における不良または欠陥のみを対象としています。乱用、御用、欠陥のある電子機器による破損は、この保証の対象外となります。請求する保障は全て、原本の仕入請求書1部を添える必要があります。また、この保証はご購入いただいた国または市場でのみ有効となります。保障サービスが必要な際には、本製品を購入いただいた国でDynaudio認定代理店が手配するものとします。

故障

故障の際には、本製品をご購入いただいた代理店まで常時お問い合わせいただけます。
または、Dynaudioヘルプラインのinfo@dynaudio.comまでご連絡ください。

より詳細な情報については、Focus XDウェブサイトfocusxd.dynaudio.comでご覧いただけます。

技術データ

ラウドスピーカー	Focus 200 XD	Focus 400 XD	Focus 600 XD
周波数域（± 3 dB）	39 Hz - 24 kHz	29 Hz - 24 kHz	20 Hz - 24 kHz
作動中の消費電力	18 - 200 W	18 - 200 W	18 - 200 W
スタンバイ状態での消費電力	< 1 W (アクティブネットワーク時)	< 1 W (アクティブネットワーク時)	< 1 W (アクティブネットワーク時)
アンプ性能	サブウーファー:150 W トゥイーター:150 W	サブウーファー:150 W ミッドレンジ:150 W トゥイーター:150 W	サブウーファー1:150 W サブウーファー2:150 W ミッドレンジ:150 W トゥイーター:150 W
寸法（高さ x 幅 x 深さ）	360 x 198 x 307 mm	980 x 198 x 307 mm	1095 x 213 x 337 mm
重量	8.65 kg	18.5 kg	27 kg
電圧源	100 - 120 V/220 - 240 V, 50/60 Hz	100 - 120 V/220 - 240 V, 50/60 Hz	100 - 120 V/220 - 240 V, 50/60 Hz
入力	デジタルオーディオ入力（16/24ビット:44.1/48/88.2/96/176.4/192 kHz）、cinch、SPDIF（75 ohm coax） デジタルオーディオ出力（16/24ビット:44.1/48/88.2/96/176.4/192 kHz）、cinch、SPDIF（75 ohm coax） アナログオーディオ入力（入力感度:+6 dB/0 dB/-6 dB）、cinch、1/2/4 V_{rms} サービス、USB、ファームウェアアップロード 無線（bit/kHz:16/48および24/96）、2.4/5.2/5.8 GHz		

All there is.

Dynaudio A/S, 8660 Skanderborg, Denmark
セールスおよびマーケティング:Dynaudio International GmbH, Ohepark 2, 21224 Rosengarten, Germany, 電話:+49 4108 - 41 80 - 0
www.dynaudio.com

© Dynaudio International GmbH, Focus XD 取扱説明書 1214本説明書の文章および画像には著作権があります。内容は予告なしに変更される場合があります。